平和な世界のためにできること

世界では、これまで数え切れないほどの争いや暴力行為が起こりました。残念なことに今でもなくなることはありません。

SDGs目標16【平和と公正をすべての人に】では、あらゆる争い事をなくし、その被害者となる人々を減らすことを課題としています。また、出生登録のされていない子どもたちの数も深刻な問題となっており、そういった子どもたちの保護も課題に含まれています。

“戦争”の反対語は“平和”。SDGsで掲げているような「暴力がなく平和な世の中」が訪れるために、私たちはなにができるのでしょう。

平和ってどんなこと?

「平和」は特別な場所にあるのではなく、身近な日常の小さなことから生まれるものです。

例えば、友達と仲良く遊ぶ、お互いを思いやる、家族と笑顔で過ごすことなど、日々の積み重ねが平和につながります。さらに、「平和」は戦争や、争いがない状態だけでなく、みんなが幸せに暮らせる、より良い世界を築いていくこと、つまり、みんなが協力してより良い未来を創造していくことでもあるのです。

具体的には、貧困や飢えがなく、安心して生活できる状態を指します。

<そのためには…>

・お互いを思いやること：みんなが仲良く助け合ったり、お互いを大切に思ったり、自分のことだけでなく、周りの人や生き物、自然を大切に思う気持ちをもつこと。

・違いを認め合うこと　：自分とは違う意見や考え方を持つ人とも、お互いを尊重し、理解し合うこと。

・助け合うこと　　：困っている人がいたら、手伝ったり、励ましたり、一緒に解決しようと努めること。

戦後80年を迎えて

私たちが暮らす日本も、戦争の過去があります。東京大空襲や、広島・長崎への原子爆弾投下など、多くの一般住民が被害を受けました。戦争は、人びとから生命、からだや心の健康、大切な家族、おだやかな生活など、さまざまなものを奪う最大の人権侵害です。

人権が尊重されることにより平和が守られ、平和であることにより人権が守られます。

2025年(令和7年)、今年の8月15日で、終戦80年を迎えます。

二度の世界大戦中には、多くの人の尊い命が失われるとともに、特定の人種の迫害や虐殺など、重大な人権侵害が横行しました。その後、国際社会では、人権の保障が平和の基礎であり、戦争は最大の人権侵害であるとの考え方が主流になり、今日に至ります。

この80年間、日本は戦争のない平和な時代を過ごし、経済発展を遂げ、先進国として今日の地位を築きました。

戦後80年という節目を迎え、私たちはその歴史を振り返り、平和の尊さを改めて認識し、未来に向けて平和な社会を築くための誓いを新たにすることが重要です。

しかし、戦後80年が経過し、戦争を実際に体験した人は少なくなり、戦後に生まれた私たちが実体験を耳にする機会も次第に減り、戦争の記憶が風化していくと言われています。

徳島県護国神社の「徳島県戦没者記念館−あしたへ−」は戦没者の顕彰と悲惨な戦争・平和の大切さを語り継いでいくための施設で、奇数月第2土曜には「語り部」による戦争の体験談発表を行っています。

今年の美波町戦没者追悼式は6月18日(水)に開催いたします。老若男女どなたでもご参加いただけますので、是非足をお運びいただけることを願います。

実際に経験していなくても、記憶を受け継いでゆくことは、戦争を知らないこどもたち私たちにとって、これからも戦争とは無縁であるためにも必要なことだと思います。

「戦争と平和」について考えることは、未来を良くするための大切な一歩です。子供たちにも、平和の尊さや大切さを伝えていくことが重要です。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことが
まさに、“にぎやかそ”美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter No.42

ハマヒルガオの咲く頃

季節毎の変化が少ないように見える砂浜の環境ですが、よく観察していると四季折々の姿が見られます。ゴールデンウィークの頃から大浜海岸では、ハマヒルガオ、ハマボウフウなどの海浜植物の花が咲き始め、ハマゴウの新芽が芽吹いています。その根元には、スナガニの足跡や掘られた巣穴が目立ち始めました。この頃になると日本の各地からウミガメの産卵報告が寄せられ始め、大浜海岸でもアカウミガメの上陸産卵が気になる頃です。今年もウミガメの産卵シーズンが始まります。手始めに、ウミガメ保護対策協議会で今年の対策方針について協議させて頂いています。この協議会は美波町ウミガメ保護条例に基づいて、その年に行う保護対策について話し合います。これまでと同様に大浜海岸でウミガメが上陸、産卵することが多い5月20日から8月20日を保護対策期間として、その期間中は夜間の大浜海岸への立ち入り禁止(午後7時30分から翌朝の4時まで)、大浜海岸に面している道路の夜間通行止め(午後8時から翌朝の4時まで)、加えて、大浜海岸周辺の灯りの消灯や遮光にご協力を頂いています。これらの対策は、暗く静かな砂浜を産卵場所として選ぶウミガメの生態に沿ったものです。しかし、最も多い時期には300回を超える上陸が記録されていた大浜海岸では、昨年は6回の上陸と4回の産卵を確認しましたが、長期的に見てその数は減少の一途にあります。加えて、他の産卵地での上陸産卵回数の推移とも異なる傾向を示しています。保護対策を執っているのになぜ「徳島一人負け」と呼ばれる減少傾向が続くのか。引き続き、ウミガメの上陸産卵を不用意に妨げない様に見守りながら、その原因を探る調査を続けなければなりません。季節毎に様々な姿を見せてくれる大浜海岸ですが、その主役は言うまでもなくアカウミガメです。これからも「ウミガメの聖地」として、アカウミガメが産卵にやってくる大浜海岸を次の世代に残すため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。(館長：平手康市)

うみがめについての質問をお送りください。
お答えします!
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」

応募フォーム

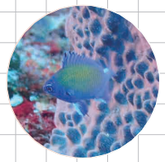
Question 海で生活するウミガメなのにどうして砂浜に上陸して産卵するの?

Answer カエルなど両生類の卵とは違い、は虫類のウミガメの卵は水中ではふ化できないので海から出て産卵します。そして砂浜は、上陸しやすい、卵を隠しやすい、ふ化に必要な温度になるなど、ウミガメの卵がふ化できる条件がそろっているので砂浜で産卵すると考えられています。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します!

アマミスズメダイ



アマミスズメダイは南西諸島などの温暖な海に多く生息する魚ですが、時々徳島でも幼魚が見られることがあります。夏から秋にかけて、暖かい黒潮にのってやってきますが、徳島の冬の海は寒く越冬できずに春には姿を消します。残念ながら死んでしまうことが多いのです。このような魚は「死滅回遊魚」とよばれていますが、ネガティブな印象もあることから、季節的に現れる魚という意味で「季節来遊魚」と最近ではよばれることもあります。短い間だけ徳島の海に現れる南の魚は他にもいて、これらとの出会いもダイビングの楽しみの一つです。(ダイバー：長楽美保)